伊藤元重のニュースな見方

羽田・成田すみ分け私案

夜間・早朝発着で便利に

羽田空港の国際化の問題が突然クローズアップされてきた。2年前に安倍政権の下で行われたアジア・ゲートウェイ戦略会議で、今行われているような論議はすべて提起した。その座長であった者としては、2年遅れでこうした議論の盛り上がりが起きてきたことには、少し複雑な心境である。ただ、こうした論議が盛り上がって日本の空が少しでもよくなることは喜ばしいことだ。

成田と羽田のすみ分けにはいろいろな論点があるが、今回は国際空港の24時間利用という点について論じてみたい。

成田空港は夜間から早朝にかけての発着ができない。そのため、夜10時ごろに最終便が出てから次の便が出るのは朝の8時以降になってしまう。これは国際空港としては致命的な弱点である。ちなみに、シンガポールやドバイの空港では、この夜間から早朝にかけて100機以上の航空機が飛び立つようだ。ハブの機能を発揮するためには、夜間から早朝の発着も重要な意味を持っているのだ。

羽田空港の一つの強みは、夜間から早朝への発着が可能であるということだ。海外出張が多いビジネスマンなら、この時間帯の発着を利用した新たなサービスがいくつか思い浮かぶはずだ。私が思いついた2つの例を挙げてみよう。

成田空港を夜10時ごろに出て、パリに朝4時過ぎにつく航空便がある。昼間日本で仕事を終わらせ、現地で朝から仕事をする必要のあるビジネスマンにとっては便利な便である。現地でフルに観光したいツアー客にとっても、朝から現地で活動できるというのは魅力的であるようだ。

ただ、朝4時に着くというのはいかにも早すぎる。空港で朝を待つことになる。もし羽田空港を夜の12時に出る欧州線を組めれば、欧州の主要都市に朝6時ごろに着くことができる。このような欧州便なら、地方の方も夕方まで地元にいて、最終便で羽田空港に来て、余裕をもって欧州に飛ぶことができる。成田空港を利用するよりは1日時間を短縮できることになる。

もう一つの例としてアジア大洋州便がある。朝の7時前後の成田空港は東南アジアやオーストラリアからの便の到着ラッシュである。タイやマレーシアの空港では、朝7時ごろ成田に到着するため、夜の12時近くまで空港で待機させられる。6時よりも前に成田に到着できないからだ。

しかも朝の成田空港に到着する便のラッシュの中で少しでも後の方に回されると、空港を出るころには8時を回っている。この時間では都心に向かう通勤ラッシュに巻き込まれてしまう。

もし羽田空港に朝の5時から6時台に到着するような便を組めれば、現地を9時から10時という時間に出ることができる。空港で時間をつぶさなくてもよい。また、朝のこの時間に到着すれば、都心へのラッシュを避けることができる。地方の方は、羽田発の始発に乗ることができるので、午前中には地元に帰ることができる。

羽田を利用した夜間早朝の発着の可能性に大いに期待したい。

（東大大学院　経済学研究科教授）

＊この記事・写真等は日経新聞社の許諾を得て転載しています。

日経流通新聞　2009年10月21日掲載